

感染予防策における、東京陸上競技協会の試み

【はじめに】

当協会、公益財団法人東京陸上競技協会は2020年7月23日から26日までの4日間、駒沢オリンピック公園陸上競技場（東京都世田谷区）に於いて東京陸上競技選手権大会を開催した。新型コロナウイルス感染症の予防策は暗中模索の状態のなか、でき得る限りの感染予防策を講じて競技会を無事終了することができたので、その概要を報告する。

新型コロナウイルス感染予防については、手洗い、マスク着用等の基本的な対策を前提に、当協会では、標準予防策（スタンダード・プリコーション：Standard Precautions）（表1）と、身体的距離の確保（フィジカル・ディスタンシング：Physical distancing）、さらには、密閉・密集・密接を避ける行動（ソーシャル・ディスタンシング：Social distancing）を念頭に対策を講じた。

本稿では、新型コロナウイルス感染予防について特別な対応をしたものを列挙することとどめてある。ここに記載した以外の対応は通常の競技会と同様と考えていただきたい。

表1) スタンダード・プリコーション

スタンダード・プリコーションとは
1996年にアメリカ疾病管理予防センター（CDC）が提唱した、院内感染予防の標準対策。
考え方：
汗を除く全ての体液、血液、分泌物、排泄物、傷のある皮膚、粘膜は感染の危険性があるものとして扱う。
具体的方法：
1. 手洗い
感染源となりうるものに触れた後、手袋を外した後、つぎの患者に接するときには手洗い、手指衛生を行う。
2. 予防具の使用
1) 手袋：感染源となりうるものに触れるときに着用する。
2) マスク・ゴーグル・フェイスマスク：目・鼻・口を汚染する恐れのある場合に着用する。
3) ガウン：衣服が汚染される恐れのある場合に着用する。
4) 汚染した器具は、粘膜・衣服・環境を汚染しないように操作し、適切に移送・処理する。

【感染予防策の方法】

4日間の大会期間中にも常に修正、変更を試みた。本稿では、その中で最善と思われるものを、主として準備の時系列、競技者の導線、観点の順に供覧する。

1. 事前準備

1) 体調管理チェックシート

日本陸上競技連盟が『体調管理チェックシート』（図 1）を作成し、同連盟のサイトからダウンロードできるようになっている。これは、大会前 7 日間と大会当日を含め計 8 日間の体調を記入するものである。これを東京陸協のサイトからもダウンロードできるようにした。

当協会では、大会前に、来場予定者全員（競技者、来賓、指導者、引率者、報道担当者、競技役員）に連絡し、『体調管理チェックシート』に記入して持参するように周知させた。提出は来場初日のみである。

図 1) 体調管理チェックシート

JAAF

【大会前／提出用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート

本チェックシートは各種大会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。本チェックシートに記入いただいた個人情報については、厳正なる管理のもとに保管し、健康状態の把握、来場可否の判断および必要なご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除きご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、大会会場にて感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要範囲で保健所等に提供することがあります。 個人情報の取得・利用・提供に同意する

※大会1週間前から記入し、大会当日、主催者の指示に従い指定の場所に提出すること／提出前に各自、コピーまたは写真を撮ってデータを保管すること
※該当しない場合は✓を入れ、該当する場合は○を記入すること（体温0.1℃単位の数字を記入）

No.	チェックリスト	／	／	／	／	／	／	／	／
1	のどの痛みがある								
2	咳（せき）が出る								
3	痰（たん）がでたり、からんだりする								
4	鼻水（はなみず）、鼻づまりがある ※アレルギーを除く								
5	頭が痛い								
6	体のだるさなどがある								
7	発熱の症状がある								
8	息苦しさがある								
9	味覚異常(味がしない)								
10	嗅覚異常(匂いがしない)								
11	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃

氏名 _____ 所属（学校名など） _____
※参加者が未成年の場合
連絡先（電話番号） _____ 保護者氏名 _____

2) 持参物

マスク、個人用シート（ストレッチなどで地面に直接座らないようにするため）、個人用タオル、ゴミ袋（各自持ち帰るようにするため）を持参するように周知した。

3) 物品の購入

準備した物品を表 2 に示す。

表2) 当協会では準備した感染予防対策用物品				
	品名	購入数	金額	備考
1	不織布マスク	3500枚	73,020	個包装
2	フェイスシールド	100枚	12,500	おでこに固定
		600枚	64,800	メガネタイプ
3	下あご用フェイスシールド	200枚	15,920	
4	防護用ゴーグル	60本	29,280	
5	使い捨てゴム手袋L	3000枚	41,144	
6	使い捨てゴム手袋LL	700枚	9,963	
7	防護服	40枚	14,080	つなぎタイプ
8	ビニールエプロン	300枚	2,928	使い捨てタイプ
9	消毒用アルコール(手)	113L	106,140	詰替え
	消毒用容器置き型(手指消毒)	102個	33,320	
10	消毒用アルコール(物)	100L	102,412	詰替え
11	消毒用スプレーボトル	190個	35,700	400ml×100本、500ml×90本
12	ウェットティッシュ	100個	44,700	100枚入り10個×10
13	ガード用ビニール	200m	70,260	0.3mm厚さ×915mm幅×50m
14	使い捨てバスタオル	120枚	16,896	
15	使い捨てフェイスタオル	300枚	8,580	
16	ペーパータオル	300個	29,969	200枚×30個入り×10箱
17	軍手	240双	4,780	その他在庫252双
18	白手袋	60双	2,625	
19	雑巾	120枚	4,604	その他在庫250枚
20	養生テープ緑50m	30巻	16,940	
	養生テープ白50m	60巻	26,158	50m×30巻入り×2箱
	養生テープ黄・赤25m	60巻	13,648	
21	ブルーシート3.6×3.6	12枚	13,164	
	ブルーシート3.6×1.8	20枚	11,160	
22	水(医務用)	60本	3,823	310mℓ
23	電池	32本	5,274	
24	非接触型体温計	10個	33,800	
25	ハンドソープ 本体	57本	28,944	
	ハンドソープ 詰替え	210.4L	170,416	
26	ハイター	78kg	15,760	5kg3個入り×5箱、600ml×5本
27	ウォータータンク(次亜塩素酸ナトリウム用)	10	8,770	
28	70Lゴミ袋(衣類搬送用)	1800枚	26,010	100枚×6パック×3箱
29	いろはす285ml	1416本	101,162	24本入り×59箱
30	ポカリスエット500ml	1080本	122,472	24本入り×45箱
31	お茶500ml	720本	38,400	48本入り×15箱
32	計量カップ、ロート、ペコベット		984	
33	ビニール袋		2,378	タンマグ用、競技役員備品配布用
34	ラップ100m	20本	5,388	100m×5本入り×4(PCカバー用)
35	ダスキンマット(レンタル)		16,445	マット、消毒液
36	IDカードケース	6000枚	98,964	500組×12
37	腕章	100枚	31,962	10枚入り×10
38	テプラテープ	30本	37,723	白、赤、緑、青、黄(9mm~36mm)
		合計	1,553,366	

3) 競技場の設営について

i) 一般来場者の入場制限

競技会は無観客とした。

ii) 立ち入り区域の分離

競技役員と競技者・指導者・引率者は可能な限り分離した。競技者が原則と異なる経路を移動する際は、競技役員が誘導する。

iii) 客席の制限

観客席は競技者・指導者・引率者のみ入場可とした。なお、隣り合わせに座らないように張り紙、テープを事前に座席に張った。また、スタンド2列目までをコーチングエリアとした。

2. 大会当日の感染予防具

1) 全員

マスク着用を義務とした

2) 競技者

競技、練習ではマスクを着用しなくてもよい。

3) 競技役員

競技者と近くで対面する者、大きい声を出す必要がある者は、フェイスシールド（図 2）を着用する。他者と直接接触する可能性がある場合は手袋を着用する。倒れた選手の救護などを行う際は、さらに医療用ガウンまたはレインコートなどを着用する（図 3）。

図 2. フェイスシールド



図 3. 医療用ガウンを着用した医務員



4)各受付場所

可能な限り、窓口やテントに透明なビニールシート（図 4）を吊って、飛沫の飛散防止を行う。

図 4. 受付のビニールシート



3. 大会当日の行動

1) 全員

こまめに手洗いと指先消毒を行う。特に、他者と共有する物（競技用具、備品など）の使用後は手洗いと指先消毒を行う。

2) 競技者、指導者、引率者

声を出しての声援や応援はしない。更衣室の滞在は短時間にする。スタンドでは、水分補給、飲料の摂取は可とするが、食事は禁止する。

4. 選手の導線に沿った予防策

1.入場口

競技場に入る者（競技者、指導者、引率者、報道担当者、競技役員）は全員が共通の入口から入場する。

1) スパイク類の消毒

入場口の外に机を準備し、アルコールスプレーで持ち込むスパイクなどの靴類の底面を競技者が各自消毒する。

2) 入場者の靴底の消毒

入場口の一番外側には消毒用マットと、その次に汚れ取りマット（図5）を置き、この2種類のマットを順に踏んで中に入る。消毒用マットの消毒薬は適宜、競技役員が補充する。

図5. 消毒用マット と 汚れ取りマット



消毒用マット

汚れ取りマット

3) 検温

i) サーモカメラ

上記マットを通り過ぎたところにサーモカメラを置き、表面温度の高い者がいれば抽出する。

ii) 体表温度測定

サーモカメラの前を通り過ぎたところに、競技役員が非接触性表面温度測定器を持って待機し、入場者の顔面の体表温度を測定する（図6）。

図6. 表面温度の測定



iii) 体表温度高温者への対応

上記 3)検温のすぐ横に『新型コロナウイルス感染症対策テント』(図 7) を設営し、医師が常駐する。3)検温で体表温度が 37 度以上の者には医師が問診を行い、体調、咽頭痛・咳嗽・鼻汁・味覚障害・新型コロナ感染者との接触の有無などについて聴取する。併せて、腋窩体温計で体温を測定する。

図 7. 新型コロナウイルス感染症対策テント



4) 手指の消毒

上記 3)検温 で問題が無かった者は入場を許可される。競技役員がアルコールスプレーを持って待機し、入場者の手指に噴霧する(図 8)。

図 8. 入場者の手指消毒



5) 受付

i) 提出部と配布物

各自が持参した『体調管理チェックシート』(図 1) を提出し、『行動観察票』(図 9)を受け取る。行動観察票は、その左側の表に、1 日の活動場所を時系列に記入するようになっている。これは、後日感染者が判明した際に、濃厚接触者を見つけ出すのが目的である。

図 9. 行動観察票

No _____

行動観察票

※選手のマイナンバーカードの番号を記入してください

大会名 東京陸上競技選手権大会 氏名 _____

選手番号 _____

試合日 _____

選手種目または審判種別 _____

緊急連絡先（親等） _____

所属または所属施設 _____

場内で活動した高さ、とその時刻等について、以下の観察表に具体的に記入してください。
 座った辺りの大体の位置やストレッチなどを使用した箇所なども記入してください。
 場内で使用したトイレについても、その間を共有し、使ったおおよその時刻を記入してください。
 場外で活動した場合は、おおよそどこで活動をしたのかを書き記してください。

※中に、15分以上止まった場所および使用したトイレの名称を書き、その時刻を左の欄に記入してください。

時刻	活動内容	活動場所
6:00		
6:30		
7:00		
7:30		
8:00		
8:30		
9:00		
9:30		
10:00		
10:30		
11:00		
11:30		
12:00		
12:30		
13:00		
13:30		
14:00		
14:30		
15:00		
15:30		
16:00		
16:30		
17:00		
17:30		

さらに選手はナンバーカード、注意事項などの入った封筒を受け取る。指導者、引率者、報道担当者は、Accreditation Card (通称：AD カード) を受け取る。

ii) 複数日来場する場合

2 日目以降は、『体調管理チェックシート』は提出しない。受付で『行動観察票』のみを受け取る。

iii) 競技者受付での滞留防止

競技者は開門時刻の前後に来場する事が多く、受付での混雑が想定される。受付作業をスムーズにするため、テーブルを横に複数台並べて、ナンバーカード順に受付場所を複数設置する。

競技者には、東京陸協サイト掲載のスタートリストで、自分のナンバーカードの番号を来場前に確認しておくように通達しておく。

4. 競技場内での行動

1) 練習場所への入場

本競技会に参加する競技者のみとし、指導者、引率者等の立入は認めない。

2) 招集場所での密集の防止

招集場所のベンチも、間を開けて座るような配置にした。

3) 選手の導線

招集所から競技終了まで、選手の通路は原則的に一方通行にする。ただし、一部の競技については、移動距離を短縮するために、競技役員の引率がある場合に限り反対通行も可とする。

4) 競技中の消毒方法

i) 人の肌に触れるものには、消毒用アルコールを噴霧する（図 10）

図 10. 各部での消毒

スターティングブロック

選手が手をつく位置

砲丸



ii) 人の肌に直接触れないものは、次亜塩素酸ナトリウム水溶液で清拭し、拭き取る。次亜塩素酸ナトリウム水溶液は、市販の家庭用漂白剤を、次亜塩素酸ナトリウムの濃度が 0.05% になるように希釈する。

【発熱者への対応】

大会期間中に発熱のある者が発生した場合は、医務室を利用せず、「発熱者対応テント」(図 11) を利用して対応する事にし、フィニッシュ近くのゲートの外に設営した。

図 11. 発熱者対応テント



【結果】

4 日間の来場者(競技者、来賓、引率者、報道関係者、競技役員)は、1 日平均約 1,000 人前後だったが、入場口のサーモカメラでは、高温を指摘されたものはいなかった。

非接触性表面温度測定器で 37 度以上だった者は 16 名で、入場口近くに設営した『新型コロナ感染症対策テント』で医師が問診を行ったが、いずれも体調不良の訴えはなく、新型コロナ感染者との接触歴もなかったため、感染症の可能性は低いと考えて入場を許可した。念のため氏名、所属先を控えておいたが、その後、新型コロナウイルス感染症の感染連絡はなかった。

また、会場内でも発熱者や体調不良者はいなかったため、4 日間を通じて「発熱者対応テント」(図 13) の利用はなかった。

大会終了後 2 週間を経過した時点でも、来場者から新型コロナウイルス感染症の感染連絡はなかった。

【まとめ】

今大会での予防策は、会場へ新型コロナウイルスを侵入させない、会場内では新型コロナウイルスを感染させない、後日、感染者がいる事が判明した際には濃厚接触者を見つけ出す、という 3 点に集約でき、いずれも目的は達せられたと考えている。

感染予防策を十分に行い、参加者各人も対策に協力的であり、そのため参加者には安心感を与えられたのか、昨今話題になっている「自粛警察」、「マスク警察」というような常軌を逸した者によるトラブルも起きずに終了することができた。

今回提示した予防策は 2020 年 7 月時点でのものである。今後、新型コロナウイルスの詳細が判明すれば、今回の予防策は有効だったのか、過剰だったのか、あるいは無効であったのかということも明らかになる日がくるであろう。

本稿の予防対策の情報提供が、他のイベントの準備の一助になることを期待している。